

令和5年度 学校評価総括表 奈良県立西和養護学校

教育目標	○心身の健康の保持・増進を図る。 ○発達段階、障害の状態及び特性等に応じ、自ら意欲的に生きる力を養う。 ○豊かな情操と相手を大切に思う心を育て、共に生きる態度を養う。			総合評価
経営方針	○子ども、保護者、教職員、異職種間・関係機関等とのコミュニケーションを豊かにし、一層の信頼関係作りと情報共有に努める。 ○一人で悩まず、一人で抱え込まず、教職員全員の知恵と力を合わせ、専門性を高めながら特色ある授業づくりを進める。 ○社会参加に向けて、校内外での様々な体験活動を通して、校内や地域との交流を深める。			
本年度重点目標	1 健康で安全安心な学校生活を過ごすための健康・安全教育の推進を図る。 2 学習指導要領への理解を深め、本校におけるカリキュラムマネジメントの検討を行う。 3 人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行う。 4 本校のキャリア教育及びセンター的機能の推進を図り、地域と連携・協働した教育活動を進める。			B
重点目標番号	具体的目標と取り組み	成果と課題	学校関係者評価	改善方策等
1	・適切な生活習慣と衛生習慣の習得および健康な体をめざした活動の提案・啓発を行い、家庭と連携した取組を進める。(保健) ・学校防災マニュアルの共通理解と防災研修を行う。スクールバス避難学習ではバス職員と連携し、安全に留意しながら取組を進める。地震火災避難学習では避難経路図や、校外での避難ルートの再確認を行い、安全に避難できるように実施する。(安全教育)	・昨年度の取組に加え、学級ごとに体力アップを目指した取組や、学校での歯みがきに関する啓発や取組を行い、意識を向け関心を持つきっかけにできた。家庭には保健だより等を通じ、取組の紹介や健康に関する情報を共有した。生活習慣として定着させるには今後も継続した取組が必要である。(保健) ・上牧町避難標より出向していたが、過去の災害や現場での様子、避難所運営マニュアルの内容等を購読し、安全への意識を高めることができた。スクールバス避難学習は介助員主導での避難を計画して実施。連携が不十分な面を課題として捉えた。2回の避難学習は防火扉を閉め、避難経路の確保をした。また校外へ出てから混み合う階段が分散されるよう周知を行った。(安全教育)	・学級ごとに体力アップの目標を設定し児童生徒に向けて興味関心がもてるような取組はそれぞれの児童生徒に応じたものとなり大変効果的と考えます。衛生面では、コロナ禍後も引き続き歯みがきや食生活等の健康に関する取組を家庭と連携しながら推進していただきたい。(保健) ・上牧町と連携した取組をさせていただいていることが、防災の取組だけでなく本校の教育全般や児童生徒理解を深めていただくことにもつながっている。地震や火災、バス乗車時など、想定される場面の訓練を継続して実施されたことは、有意義であった。防災教やタタメット、防災食等にかかわる学習や経験も有効と感じる。(安全教育)	・今年度までの取組に加え、様々な健康課題に関する視点も加えながら、児童生徒のより良い生活習慣として定着するように継続した取組を行う。(保健) ・来年度は防犯研修を実施していく予定。避難学習に関してはタタメットの練習や活用を検討していく。また校内に設置されている非常ベル装置の操作方法や作動の確認を分掌内で行う。スクールバス避難学習では、バス職員との事前の打ち合わせの際に、児童生徒の個々に応じた対応について担任との連携がとれるよう計らう。(安全教育)
2	・指導計画等の作成及び整理を進め、学習評価の在り方について検討・実践を行う。(教務) ・ICTを活用した授業づくりや児童生徒のICT活用を指導する力を向上させるための教員研修を実施する。(情報教育) ・「切れ目のない豊かな学びの充実～自立と社会参加を目指して～」の研究テーマの下、各学部の教育を充実させる取組とともに、つながりを意識した全校体制の研究プロジェクトを実施する。(研究)	・学習指導要領にそった取組が進められるよう、各学級で指導計画の作成及び整理を進めた。各学級の実情に合わせた研修を行うとともに、全体では「指導と評価の一体化」を進めるため、観点別学習状況の評価や評価規準の考え方を周知し、日々の実践に生かせるよう、指導案の書式の提案を行った。考え方の理解は少しずつ深まっているが、実践に生かす部分は今後の課題である。(教務) ・夏季休業中に2回6講座の研修を行った。また、研究部を連携し、ちよこっ勉強会や研究プロジェクトでもICT活用についての研修や議論を行った。研修後、授業や校務で活用する教員が増えた。教員が教材・教具としてICTを活用するスキルは高まったが、児童生徒のICT活用を指導するスキルを向上させるための研修は継続して必要である。(情報教育) ・研究テーマに沿って各学級で2年目の取組を行い、教育の充実化を図った。研究プロジェクトでは5つの分科会でそれぞれ校務分掌と連携し、全校体制で情報や意見交換を行った。今後は学部研究や研究プロジェクトの成果を有機的に統合し、切れ目のない学びにつなげていく具体的な手段を模索したい。(研究)	・「指導と評価の一体化」は、個別最適な学習や深い学びの実現に向けて非常に大事なことです。今後も学部の実情に合わせた研修や、学部のつながりを大切にしつつ、指導や評価の共通理解を進めたいと考えています。(教務) ・教員が様々なICT機器を駆使して教材教具として活用推進の取組をしておられることが分かった。ICTの活用も含め、授業研究を中心に先生方が実践的に研修を深めていかれることを願っています。(情報教育) ・全校で連携した研究プロジェクトや「ちよこっ勉強会」など教育の充実に向け多様な工夫をしておられることが分かった。「切れ目のない学び」というテーマを充実させながら、児童生徒が自立と社会参加にむけた学びを深めていけるよう、今後も取組を推進していただきたい。(研究)	・学習指導要領にそった指導計画の作成や整理を引き続き行う。評価規準の作成を進め、児童生徒の学習状況を適切に評価できるよう、実践に生かせるような研修を定期的に行うようにする。(教務) ・来年度も継続的に必要に応じたICT機器やアプリケーション等に係わる研修を企画・実施する。(情報教育) ・3年間の研究まとめの年となるので、各学級の教育充実化だけでなく、各学部とのつながりを意識した取組を実施する。また、研究プロジェクトの準備期間を十分に確保し、各分科会と校務分掌との連携を一層深める。各分科会の研究成果や情報の共有を促進し、実際の指導に生かしていけるよう、報告書等を作成する。(研究)
3	・人権に関する問題や課題を収集し、関係分掌、関係機関等と連携しながら対応する。・研修等の企画、実践を通して教職員一人一人の人権に対する知的理解の深化や意識の向上日常化を図る。・他校との人権推進協議や研修等で得た情報を人権推進委員会で共有し、必要に応じて全体に周知する。(人権教育推進)	・学部ごとに人権に関わる課題等の報告を行い対応について検討を行った。人権推進委員会として対応が必要なケースはなかったが、継続した取組が必要。 ・人権教育のテーマに沿った研修を企画し実施した。一人一人のニーズに対応するため、選択型の研修を取り入れた。研修の講師と連携し、事前に人権アンケートを行うなどして、意識の向上を図る取組を実施した。人権意識の日常化を図る取組が必要。 ・教員全体や人権推進委員会に向けて研修案内を通知したり、人権に関する冊子等の回覧を行ったりして、必要に応じて情報を発信した。継続して実施していく必要がある。(人権教育推進)	・時事的なテーマを扱うなどの視点ももち、児童生徒や教職員の一人一人が人権のことを考える機会をもつような取組を工夫し大切にしたいと考えています。 ・人権教育については知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面のそれぞれの側面をバランスよく充実させ、児童生徒も教職員も、豊かな人権感覚を身につけ人権の主体となることできるよう、取組を大切にしていきたい。(人権教育推進)	・今後も人権推進委員会で本校の人権に関わる問題等について情報収集を行い、対応を検討していく。 ・教員の人権に対する知的理解の深化や人権意識の向上のための研修と人権意識を持ち続けられるような取組を併せて実施していく。 ・今後も継続して、情報の発信を行っていく。人権の担当教員で協力し合い、できるだけ出張や研修に参加することで、必要な情報を収集することに努める。(人権教育推進)
4	・県及び校区内の教育委員会、教育支援委員会、各機関と連携をしながら、教育的ニーズに応じた学びの場等のに向けた共通理解を図る。教育的ニーズに応じた支援のため関係分掌と連携しながら教育相談等を進める。(各学部、教育支援) ・児童生徒の生活全般を見渡した適切な支援につながる取組を行えるよう、分掌の連携を進め、部内での役割を見直す。また積極的に情報収集を行い、研修の機会を設定する。(進路指導)	・各学部と連携しながら地域と就学に関わる相談を行うことができた。地域の学校に対してICTを使用したアセスメントの方法や教育課程、進路選択など各分掌と連携しながら、教育相談を進めることができた。(教育支援) ・進路専任を中心に、進路部員も校内ケース会議に参加し、必要な情報提供を行った。また、個別の教育相談をサポートするために、本校の進路指導についての短時間の動画を作成し教育支援部と共有した。部内研修として、放課後等デイサービスの見学を行い、児童生徒の放課後の過ごし方について情報共有する機会をもった。(進路指導)	・校区内の相談に教育的ニーズを整理しながら丁寧に対応していることがよく分かった。ICTも活用しながら本校の強みを一層発信していただきたい。学校ホームページを、交流の場や情報伝達の間とする工夫も可能ではないかと考える。(教育支援) ・将来を見据えた指導支援を行う上でも教員が進路先で体験する取組は評価できる。生活介護や就労継続支援、企業、グループホームなど様々な卒業後の場があるので、今後も見聞を広げるとともに小中高の丁寧な支援を今後もお願いしたい。(進路指導)	・今後も県や市町の教育委員会や教育支援委員会と連携を、共通理解を図る。教育的ニーズに応じた支援の充実のために各分掌や各学部と連携しながら、教育相談にあたる。校区内のニーズに即した研修会を実施する。(教育支援) ・今後も、各部の校内支援を充実させるべく、必要に応じて進路部員と進路専任が支援会議等に連携して参加し、協力していく。各分掌と連携しながら、地域のニーズを踏まえて、本校の進路に関わる情報を発信していく。放課後等デイサービスの見学は、次年度も引き続き部内研修として実施していく。(進路)